

# 平安京右京六条一坊十一・十四町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京右京六条一坊十一・十四町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、京都市リサーチパーク10号館建設に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

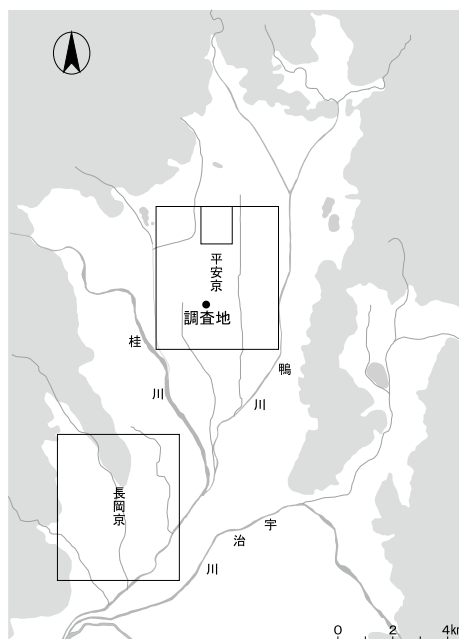
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 平安京跡（京都市番号 17 H 460）                          |
| 2 調査所在地  | 京都市下京区中堂寺栗田町地内                                |
| 3 委 託 者  | 大阪ガス都市開発株式会社 代表取締役社長 三浦一郎                     |
| 4 調査期間   | 2018年7月17日～2018年11月5日                         |
| 5 調査面積   | 2,390㎡  |
| 6 調査担当者  | 松永修平・木下保明                                     |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西京極」・「島原」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）                |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                                |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。             |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                          |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                           |
| 13 本書作成  | 松永修平  |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。     |



(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 遺 構	6
4. 遺 物	14
(1) 遺物の概要	14
(2) 土器類	14
(3) 土製品	15
(4) 瓦類	15
5. ま と め	16

# 図 版 目 次

図版1 遺構	1	1・2区全景（南西から）
	2	3区全景（北東から）
図版2 遺構・遺物	1	溝40（北から）
	2	出土遺物

# 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（南西から）	2
図4	作業風景（西から）	2
図5	周辺調査位置図（1：5,000）	3
図6	調査区南壁・流路100断面図（1：100）	7
図7	調査区平面図 平安京造営前（1：400）	8
図8	流路130断面図（1：50）	9
図9	調査区平面図 平安時代以降（1：400）	10
図10	調査区南西部拡大平面図（1：150）	11
図11	調査区西部拡大平面図（1：120）	12
図12	溝15・36・40断面図（1：50）	13
図13	土坑89・90実測図（1：50）	13
図14	出土土器類実測図（1：4）	15
図15	出土土製品実測図（1：4）	15
図16	出土瓦類拓影及び実測図（1：4）	15
図17	右京六条一坊十一町における土地利用の変遷（1：2,000）	16
図18	平安時代前期から中期初頭の右京六条一坊の様相（1：2,000）	18
図19	平安時代後期から鎌倉時代の右京六条一坊の様相（1：2,000）	19

# 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	6
表3	流路100出土大型植物化石樹種同定結果一覧表	9
表4	遺物概要表	14



# 平安京右京六条一坊十一・十四町跡

## 1. 調査経過

今回の調査は、京都リサーチパーク10号館建設に伴い、大阪ガス都市開発株式会社から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

調査地は、現在の五条通の南、七本松通の西、京都リサーチパークの西屋外駐車場に位置し、平安京の条坊では右京六条一坊十一・十四町にあたる。調査地周辺は、建物建設や区画整理などにより数多くの調査が行われている。

調査区は南北約50m、東西約60mの範囲に逆L字状に設定した。面積は2,390㎡である。北から1区、2区、3区に分割して、平成30年7月17日に3区から調査を開始し、3区終了後に1・2区の調査を行った。調査は、重機で表土の掘削を行った後、人力による遺構の検出及び掘削を行った。なお、調査区内の遺構面の多くが、駐車場となる以前に存在した建物の基礎により失われていた。検出した遺構は、写真や実測による記録を行い、11月5日に調査を終了した。埋め戻しは行っていない。

調査中は、適宜、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課による臨検を受けた。

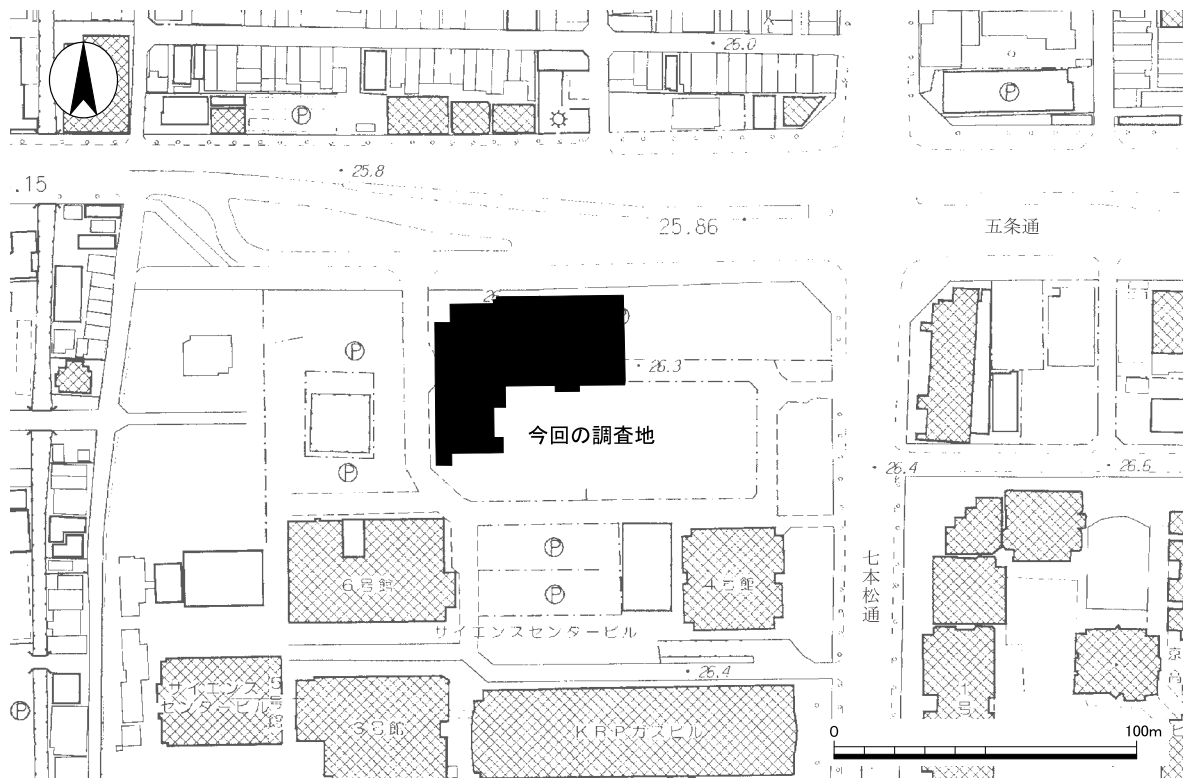


図1 調査位置図 (1 : 2500)

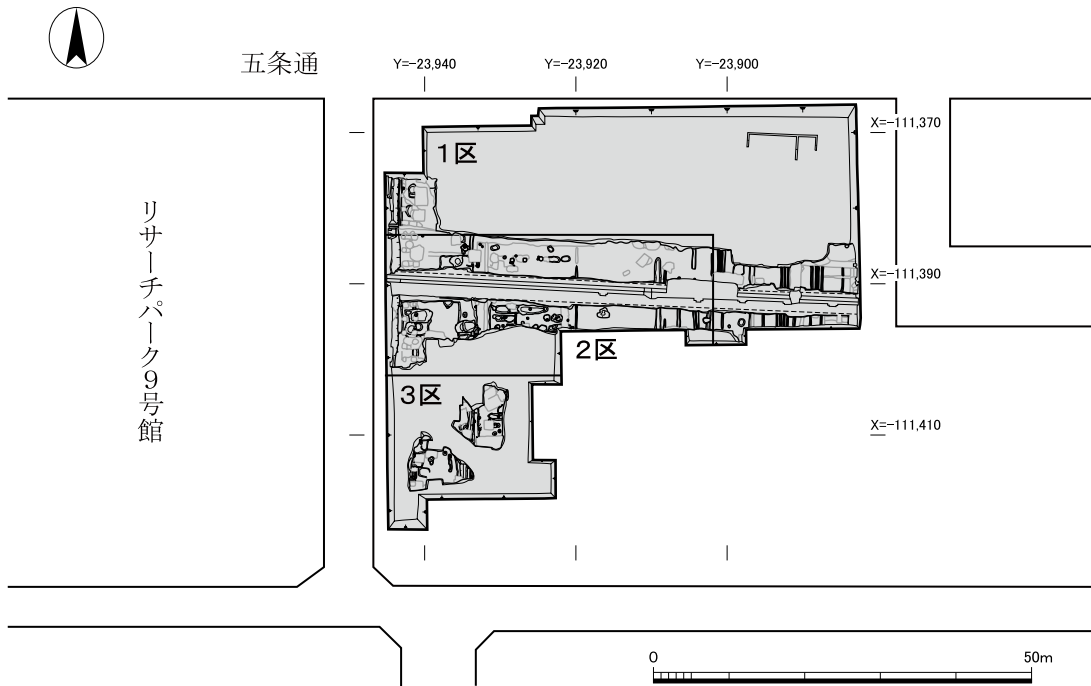


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 調査前全景 (南西から)



図4 作業風景 (西から)

## 2. 位置と環境

調査地は、平安京の条坊では右京六条一坊十一町の西部、西櫛笥小路、十四町の東部にあたる。調査地周辺では、建物建設や区画整理などにより数多くの調査がなされている（図5、表1）。特に現在の五条通から南約300mとJR丹波口駅から西約500mまでの範囲にあたる右京六条一坊三・四・五・六・十一・十二・十三・十四町では密に調査が行われており、平安時代から鎌倉時代にかけての遺構群が確認されている。以下、主な調査成果を時代順にまとめる。

平安時代より前の時代の遺構に関しては、後世の削平などにより遺存状況がよくないが、縄文時代から古墳時代の川跡などが検出されており、遺物が出土している（XF3・6・7～11・19・21、XH1・3調査）。

平安時代前期には宅地跡が確認されており、特に五町では9世紀中頃の1町規模の邸宅が存在していた（XF2調査）。十二・十三・十四町においても2分の1町から4分の1町規模の宅地が確認されている。（XF4・6・7・10～12・21調査）。また条坊関連の遺構として、六条大路や皇嘉門大路、楊梅小路、西櫛笥小路、西坊城小路の側溝が検出されている（XF3・4・7・10・13・14・17・18調査）。

平安時代後期から鎌倉時代にかけては、皇嘉門大路の東西で様相が異なる。皇嘉門大路より東の五町や六町では楊梅小路に沿った町屋型建物、さらに六町では平安時代末から鎌倉時代の御堂と考えられる建物、園池も見つかっている（XF2・8・9・19調査）。一方、皇嘉門大路より西では、十四町内の南北方向の溝（XF11調査）や井戸（XF5調査）などが見つかっているのみであり、

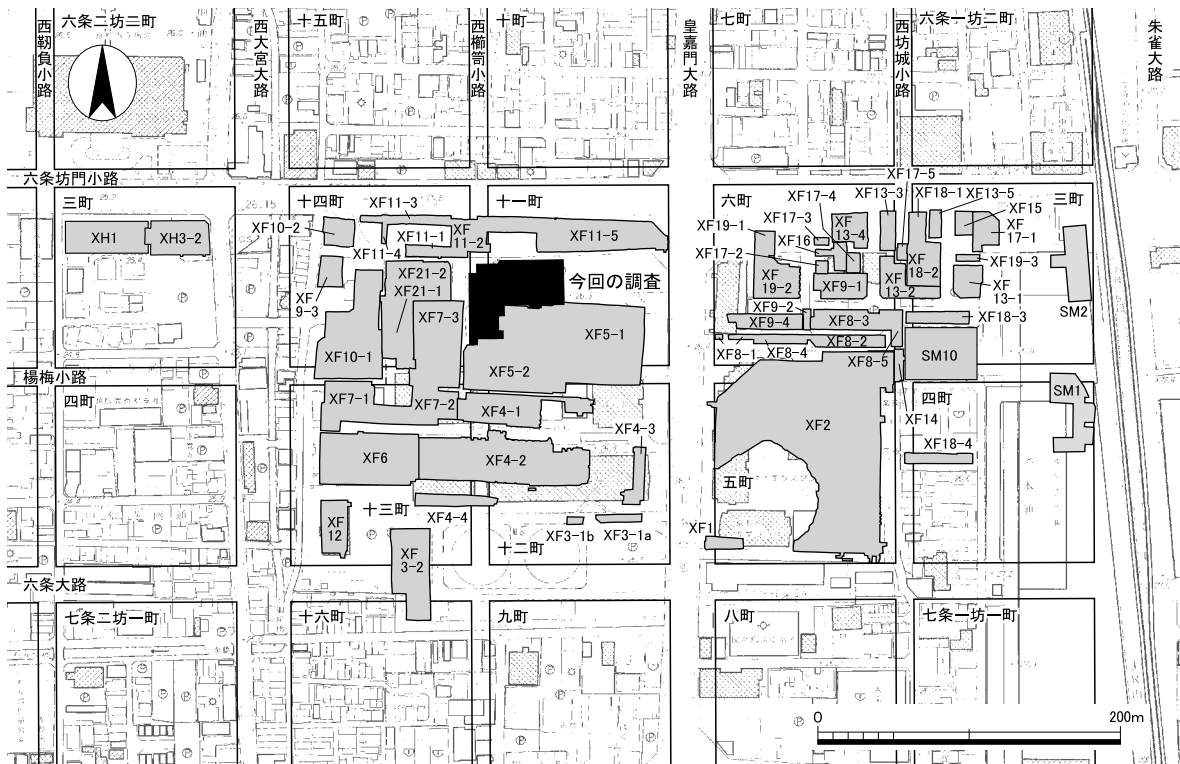


図5 周辺調査位置図（1：5,000）

表1 周辺調査一覧表

調査記号	条坊町名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	主な成果	文献 番号
SM 1・2	六条一坊三町・ 四町	中堂寺南町	1979.03.10 ～06.11	2,000	[平安時代後期] 溝 [室町時代] 井戸	1
XF1	六条一坊五町	中堂寺南町17他	1987.08.03 ～08.04	55	[平安時代末～鎌倉時代前期] 皇嘉門大路東側溝	2
XF2	六条一坊五町	中堂寺南町	1987.09.16 ～1988.04.21	9,646	[平安時代前期] 掘立柱建物、井戸、皇嘉門大路東側 溝 [平安時代後期～鎌倉時代] 掘立柱建物、井戸	3
XF3	六条一坊十二町 ・十三町、七条 一坊十六町	中堂寺栗田町1	1987.03.28 ～1989.06.07	1,610	[縄文～古墳時代] 湿地 [平安時代] 六条大路北側溝	4
XF4	六条一坊十二町 ・十三町	中堂寺栗田町1	1989.07.20 ～1990.05.30	5,670	[平安時代] 掘立柱建物、井戸、西櫛笥小路東側溝 [平安時代末～鎌倉時代] 西櫛笥小路西側溝	5
XF5	六条一坊十一町	中堂寺栗田町	1991.02.12 ～6.19	6,050	[平安時代] 掘立柱建物、井戸、西櫛笥小路西側溝	6
XF6	六条一坊十三町	中堂寺栗田町1	1991.11.18 ～1992.03.07	2,000	[縄文～弥生時代] 流路 [平安時代] 掘立柱建物、井戸、溝	7
XF7	六条一坊十三町 ・十四町	中堂寺栗田町1	1992.07.13 ～1993.01.14	3,805	[縄文～弥生時代、古墳時代] 流路 [平安時代] 楊梅小路路面、南北両側溝、掘立柱建物	8
XF8	六条一坊六町	中堂寺南町	1993.08.07 ～1994.03.24	1,400	[縄文～古墳時代] 湿地 [平安時代前期] 掘立柱建物、井戸 [平安時代後期～鎌倉時代] 掘立柱建物、井戸、西坊 城小路西側溝	9
XF9	六条一坊六町・ 十四町	中堂寺南町地内	1994.04.18 ～08.31	1,247	[縄文～古墳時代] 湿地 [平安時代後期～鎌倉時代] 井戸、溝	9
XF10	六条一坊十四町	中堂寺栗田町 地内	1994.08.29 ～1995.02.24	2,770	[古墳～平安時代後期] 川跡 [平安時代前期] 井戸、掘立柱建物、楊梅小路北側溝	9
XF11	六条一坊十一町 ・十四町	中堂寺栗田町 地内	1995.04.10 ～12.01	3,320	[縄文～古墳時代] 川跡 [平安時代前期] 掘立柱建物、井戸	9
XF12	六条一坊十三町	中堂寺栗田町 地内	1996.09.02 ～12.28	650	[平安時代前期] 池、掘立柱建物	10
XF13	六条一坊三町・ 六町	中堂寺南町地内	1997.07.13 ～12.19	1,894	[平安時代前期] 掘立柱建物 [鎌倉時代] 池、井戸、西坊城小路側溝	9
XF14	六条一坊六町	中堂寺南町地内	1998.10.26 ～12.04	120	[平安時代後期] 井戸、西坊城小路西側溝 [鎌倉時代] 西坊城小路西側溝	9
XF15	六条一坊三町	中堂寺南町地内	1999.01.29 ～03.10	210	[平安時代後期] 井戸	9
XF16	六条一坊六町	中堂寺南町地内	1999.09.26 ～10.26	230	土取り跡	9
XF17	六条一坊三町・ 六町	中堂寺南町地内	2000.01.18 ～04.06	627	[平安時代末～鎌倉時代] 西坊城小路西側溝 [江戸時代] 御土居濠	9
XF18	六条一坊三町・ 四町	中堂寺南町地内	2000.04.09 ～10.05	1,385	[平安時代末～鎌倉時代] 西坊城小路東側溝	9
XF19	六条一坊六町	中堂寺南町地内	2001.12.03 ～2002.05.23	1,058	[平安時代以前] 川 [鎌倉時代] 建物(御堂)、池跡	9
XH1	六条二坊三町	西七条東御前田 町地内	2006.11.28 ～2007.03.16	1,160	[古墳時代] 流路 [平安時代] 池、埋納土坑、柵、溝など	11
XH3-2	六条二坊三町	西七条東御前田 町地内	2007.08.21 ～12.21	840	[弥生時代] 流路 [平安時代前期] 掘立柱建物、溝、埋納土坑など	12
SM10	六条一坊三町	中堂寺南町地内	2008.05.08 ～09.18	1,670	[平安時代前～中期] 掘立柱建物 [室町時代] 西坊城小路東側溝、楊梅小路北溝、門、 井戸 [江戸時代] 土取土坑	13
XF21	六条一坊十四町	中堂寺栗田町 地内	2008.10.03 ～2009.03.19	1,950	[弥生時代] 溝 [平安時代前期] 建物、門、柵、溝 [平安時代後期] 落ち込み、溝	14
XF22	六条一坊十一町	中堂寺栗田町 地内	2018.07.17 ～11.05	2,390	[平安時代] 溝 [平安時代末～鎌倉時代] 溝	本 報告

※ 調査記号 SMは京都市中央卸売市場関連、XFは大阪ガス京都工場跡地・リサーチパーク関連、XHは五条通拡幅工事関連の調査。

宅地の具体的な様相は不明である。

室町時代以降の遺構は、三町で御土居の濠（XF17調査）や、その他広範囲で土取り穴や小溝群が見つかっており、主に耕作地として土地利用がなされていたと考えられる。

#### 文献一覧

- 1 網 伸也「平安京右京六条一坊三・四町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 2 小森俊寛「平安京右京六条一坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 3 梅川光隆・杉山信三ほか『平安京右京六条一坊 - 平安時代前期邸宅跡の調査 -』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1992年
- 4 長宗繁一「平安京右京六・七条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 5 長宗繁一「平安京右京六条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 6 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 7 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 8 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 9 平尾政幸ほか『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002 - 6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 10 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 11 小檜山一良・卜田健司『平安京右京六条二坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006 - 25 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 12 小檜山一良ほか『平安京右京六条二坊三・六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007 - 14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 13 布川豊治ほか『平安京右京六条一坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008 - 7 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 14 南 孝雄『平安京右京六条一坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008 - 22 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図6)

調査地の現地表面の標高は26.0～26.3mで、ほぼ平坦である。

基本層序は、地表下約1.0mまで現代盛土があり、その下に厚さ0.2～0.3mの近世から近代の遺物包含層(第1・2層)がある。Y=-23,914付近を境界とし東西で様相が異なり、東側では、その下に厚さ0.1mの室町時代の耕作土(第12層)がある。以下、黄褐色シルトを主体とした地山となる。

#### (2) 遺構の概要

今回の調査で検出した遺構は、弥生時代から室町時代のものがあるが、多くは室町時代の耕作に伴う素掘り溝と土取り穴と思われる土坑である。平安時代の遺構は少数だが、条坊に関連する溝などを検出している。

以下、時代順にそれぞれの遺構について述べる。

#### (3) 遺 構

##### 平安京造営前 (図7、図版1)

**流路35** 調査区南西部の断割調査で、北東から南西方向の流路を確認した。その位置や方向から、調査区東半で検出した流路100とつながる可能性も考えられるが、流路35は、上層が地山と同質の埋土であることなど、流路100とは堆積状況が異なることから別の流路であると考えられる。遺構の重複関係から平安時代より前と考えられるが、時期は特定はできない。最上層からは平安時代前期の須恵器や瓦の細片が出土したことから、この時期に整地を行ったと考えられる。

**流路100** (図6、表3) 調査区の中央以東で検出した北東から南西へ流れる幅30m以上、深さ1.5m以上の自然流路である。東肩は調査区外となり確認していない。層序は、大きく2層に分かれる。上層は第17層(図6)であり、最終的に湿地状となった後に整地したものと考えられる。下

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安京造営前	流路35(平安時代より前)、流路100・130(弥生時代)	流路100の東肩は調査区外へ続き未検出
平安時代前期	溝15・36	西櫛笥小路東西側溝
平安時代末期 ～鎌倉時代	溝40	
室町時代	土坑41・42・89・90・104～106・108・136・137・142など、耕作溝群	

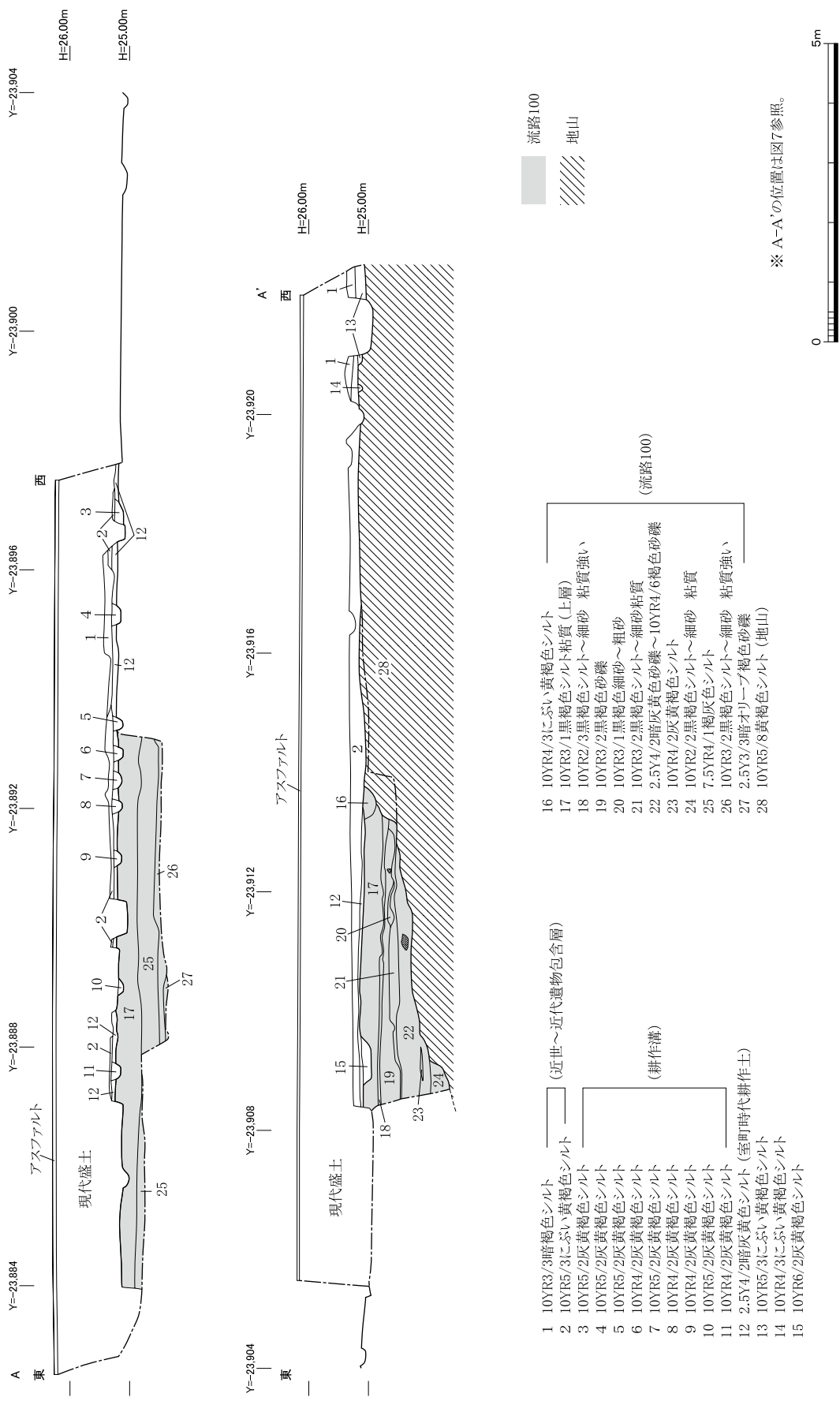
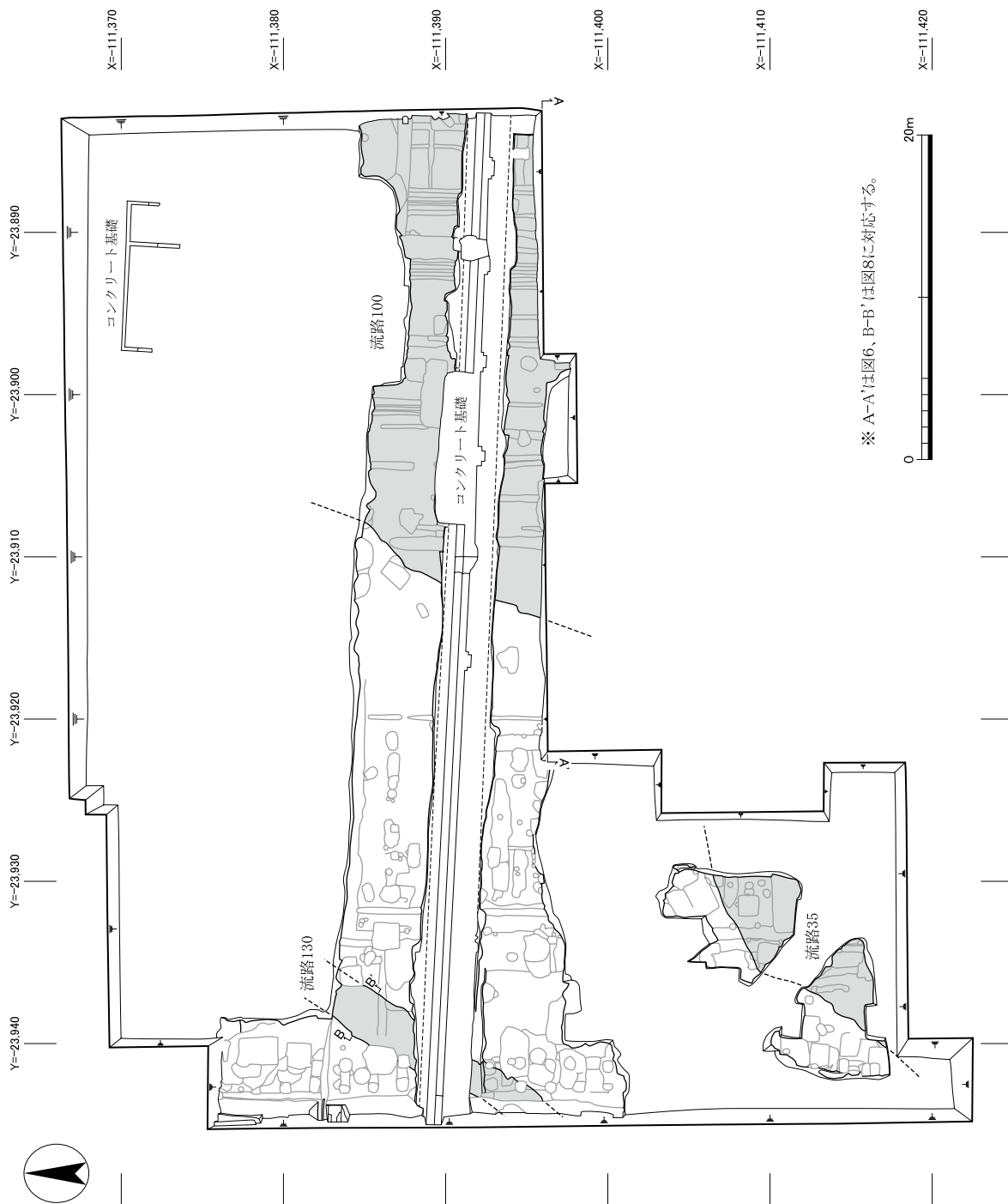


図6 調査区南壁・流路100断面図 (1:100)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 10YR3/3暗褐色シルト</li> <li>2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト</li> <li>3 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>4 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>5 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>6 10YR4/2灰黄褐色シルト</li> <li>7 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>8 10YR4/2灰黄褐色シルト</li> <li>9 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>10 10YR5/2灰黄褐色シルト</li> <li>11 10YR4/2灰黄褐色シルト</li> <li>12 2.5Y4/2暗灰黄色シルト (室町時代耕作土)</li> <li>13 10YR5/3にぶい黄褐色シルト</li> <li>14 10YR4/3にぶい黄褐色シルト</li> <li>15 10YR6/2灰黄褐色シルト</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(近世～近代遺物包含層)</li> <li>16 10YR4/3にぶい黄褐色シルト</li> <li>17 10YR3/1黒褐色シルト粘質 (上層)</li> <li>18 10YR2/3黒褐色シルト～細砂 粘質強い</li> <li>19 10YR3/2黒褐色砂礫</li> <li>20 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂</li> <li>21 10YR3/2黒褐色シルト～細砂粘質</li> <li>22 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫～10YR4/6褐色砂礫</li> <li>23 10YR4/2灰黄褐色シルト</li> <li>24 10YR2/2黒褐色シルト～細砂 粘質</li> <li>25 7.5YR4/1楊灰色シルト</li> <li>26 10YR3/2黒褐色シルト～細砂 粘質強い</li> <li>27 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫</li> <li>28 10YR5/8黄褐色シルト (地山)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(耕作層)</li> <li>16 10YR4/3にぶい黄褐色シルト</li> <li>17 10YR3/1黒褐色シルト粘質 (上層)</li> <li>18 10YR2/3黒褐色シルト～細砂 粘質強い</li> <li>19 10YR3/2黒褐色砂礫</li> <li>20 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂</li> <li>21 10YR3/2黒褐色シルト～細砂粘質</li> <li>22 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫～10YR4/6褐色砂礫</li> <li>23 10YR4/2灰黄褐色シルト</li> <li>24 10YR2/2黒褐色シルト～細砂 粘質</li> <li>25 7.5YR4/1楊灰色シルト</li> <li>26 10YR3/2黒褐色シルト～細砂 粘質強い</li> <li>27 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂礫</li> <li>28 10YR5/8黄褐色シルト (地山)</li> </ul> |
|---|--|---|



※ A-A'は図6、B-B'は図8に対応する。

図7 調査区平面図 平安時代造営前 (1 : 400)

層の第18～27層は黒褐色のシルト～細砂の腐植土層と砂礫層が互層状に堆積している。弥生土器が出土した。第24層の土を一部洗浄し種実同定を行った(表3参照)。弥生時代の流路と考えられる。流路の底面を確認したのはY=-23,913からY=-23,908にかけてのみである。

**流路130**(図8) 調査区西部で検出した、流路100と同様に北東から南西へ向かって流れる自然流路である。幅約3.0m、深さ約0.5mある。埋土は上下2層に分かれる。下層から弥生土器が出土した。弥生時代の流路と考えられる。



表3 流路100出土大型植物化石樹種同定結果一覧表

分類群	部位	科名	生育場所	検出個体数
木本				
アカガシ亜属	殻斗・果実・幼果	ブナ	山地	15(殻斗15・果実13)
アカガシ亜属	葉	ブナ	山地	多数
コナラ亜属	殻斗	ブナ	山地	1
ブナ科	果実	ブナ	山地	2
カエデ属	果実	カエデ	山地	8
クワ属	果実	クワ	山地・庭木・栽培	45
コウゾ属	果実	クワ	山野・栽培・庭木	5
マタタビ	種子	マタタビ	山野	1
フイチゴ	核	バラ	山地	2
キイチゴ属	核	バラ	山野・道端	7
サクラ属	核	バラ		1
キハダ	核	ミカン	山地	1
トチノキ	種子	トチノキ	山地	1
タラノキ	種子	ウコギ	山野	6
ミズキ	核	ミズキ	山地	2
エゴノキ	核	エゴノキ	山地・野原	2
ムラサキシキブ属	核	クマツヅラ	山野・庭木	2
ニワトコ	核	スイカズラ	山野・庭木	5
草本				
イラクサ科	種子	イラクサ		11
ミズ属	種子	イラクサ	山野の湿った所	110
タデ科(三稜形)	果実	タデ	水辺・湿地・道端	7
アブラナ科	種子	アブラナ	水田・水辺・道端	5
キジムシロ属	果実	バラ	野原・河原	7
スマレ属	種子	スマレ	道端・山野	1
シソ属	果実	シソ	道端	1
ヤブタバコ	果実	キク	水田・野原	2
キク科	果実	キク	野原・湿地	3
ヒルムシロ科?	種子	ヒルムシロ	池・沼・水田(浮葉性)	1
カヤツリグサ科(三稜形)	果実	カヤツリグサ	湿地・山野	8
カヤツリグサ属(扁平形)	果実	カヤツリグサ	湿地・山野	8
スゲ属(扁平形)	果実	カヤツリグサ		21
キケマン属	種子	ケン	山野	1
ネコノメソウ属	種子	ユキノシタ	山野	2
その他				
昆虫				多数

流路130

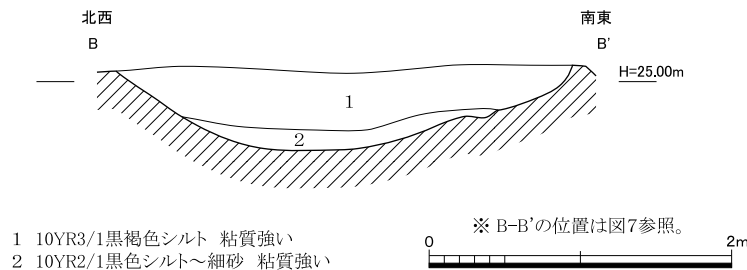


図8 流路130断面図 (1:50)

平安時代前期 (図9、図版1)

溝15 (図10・12) 調査区南西部中央で検出した南北方向の溝である。検出規模は、南北約9.0m、幅0.7～0.8m、深さ約0.1mである。西櫛笥小路東築地心推定位置から約0.9m西に位置する。検出した位置から、西櫛笥小路東側溝の可能性が考えられる。

溝36 (図10・12) 調査区南西部西端で検出した。検出規模は、南北約1.7m、幅0.7m、深さ約0.2mである。西櫛笥小路西築地心推定位置から約2.2m東に位置する。検出した規模はわずかだが、溝15の埋土と類似していることから、溝15と対応するものとする。溝の西肩は、現代の攪乱により失われている。検出した位置から、西櫛笥小路西側溝の可能性が考えられる。

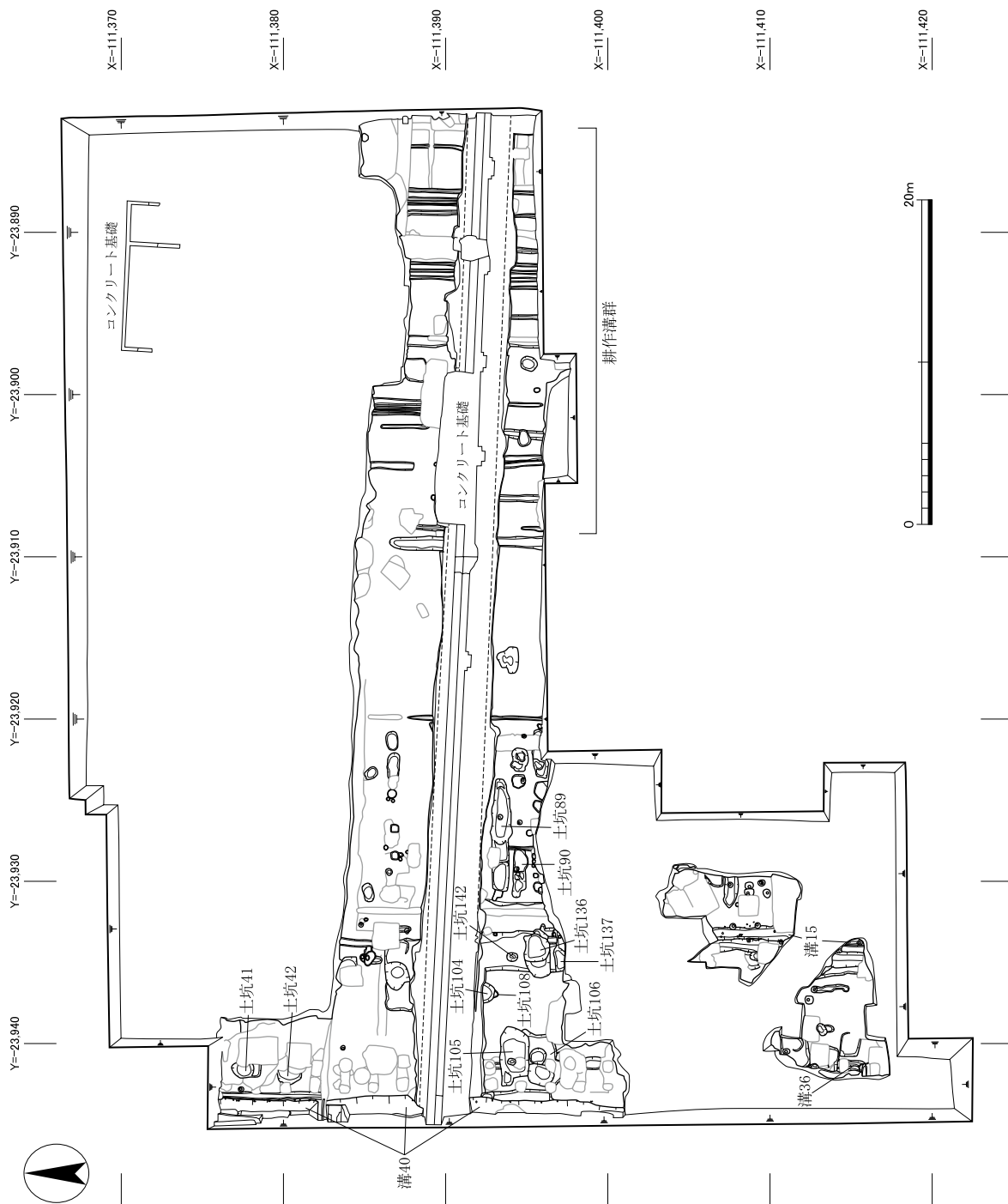


図9 調査区平面図 平安時代以降 (1:400)

### 平安時代末期から鎌倉時代 (図9、図版1)

溝40 (図11・12、図版2) 調査区北西部で検出した南北方向の溝である。検出規模は、南北約23.6m、幅1.3m以上、深さ約1.2mである。西櫛筒小路西築地心の推定位置付近に位置する。西肩は調査区外となっているため検出していない。東肩部には南北方向に杭跡列が並ぶが、検出位置が東肩の上部であり、護岸の杭列とは考えにくいことから後世のものとする。遺物は、平安時代末期頃の土器・瓦類が出土した。また、ウマの上顎骨左前臼歯 (P2) と右大腿骨遠位が出土している。<sup>1)</sup> XF11調査のSD66の南側延長部分に位置する。報告では鎌倉時代の溝としており、溝40とは<sup>2)</sup>

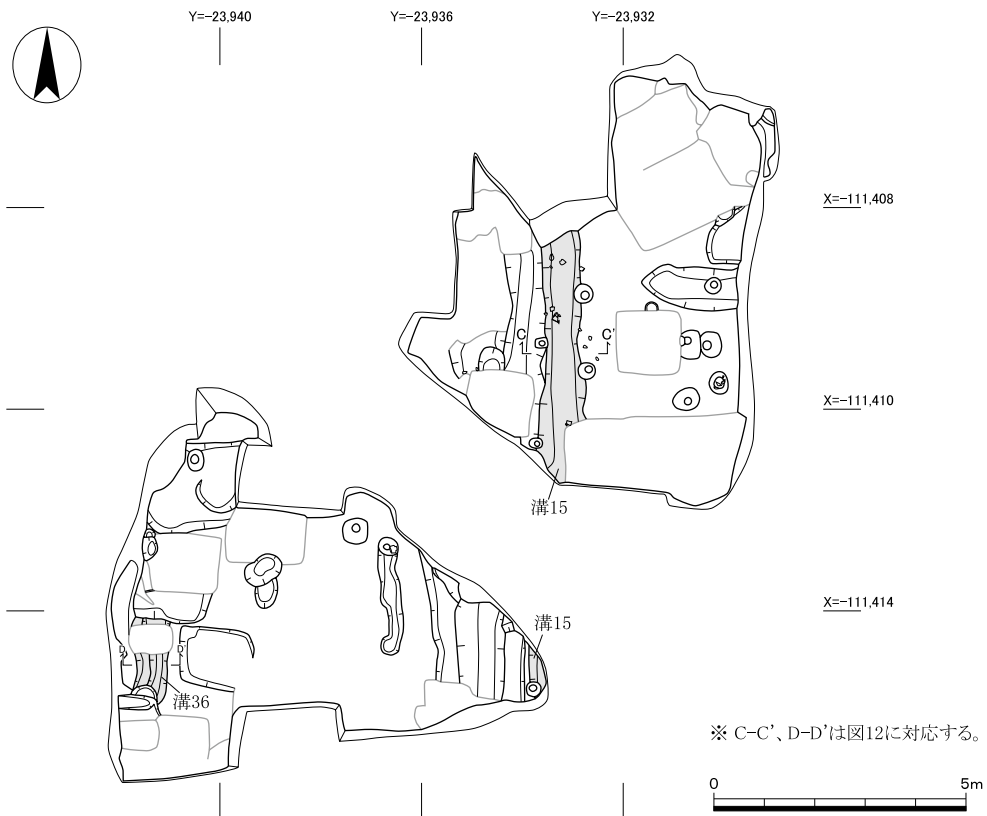


図10 調査区南西部拡大平面図（1：150）

若干時期は異なるが、検出位置、規模、形状などから同一の溝と考えられる。

### 室町時代（図9、図版1）

室町時代の土坑は、調査区の西側で主に検出した土坑41・42・89・90・104～106・108・136・137・142などがある。平面・断面が不整形のものが多く、地山の黄褐色シルト上面から掘り下げられ、黄褐色細砂の直上で止まっており、土取り穴と考えられる。出土遺物には龍泉窯系の青磁などが含まれることから、この土坑群は室町時代に属すると考えられるが、出土遺物の大半は細片であり図化はしていない。ここでは代表的な土坑2例について述べる。

**土坑89**（図13） 調査区の西側で検出した。南北約1.0m、東西約7.3m、深さは約0.5mである。

**土坑90**（図13） 調査区の西側で検出した。土坑89の南に位置する。南北約0.8m、東西約3.0m、深さ約0.5mである。

**耕作溝群** 調査区の東側で集中して検出した。いずれも南北方向の素掘り溝である。幅0.2～0.4m、深さ0.1mほどである。埋土は、灰黄褐色や褐色シルトが主である。

註

- 1) 東海大学の丸山真史氏の御教示による。また大腿骨には切創痕とみられる痕跡がある。
- 2) 平尾政幸ほか『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002

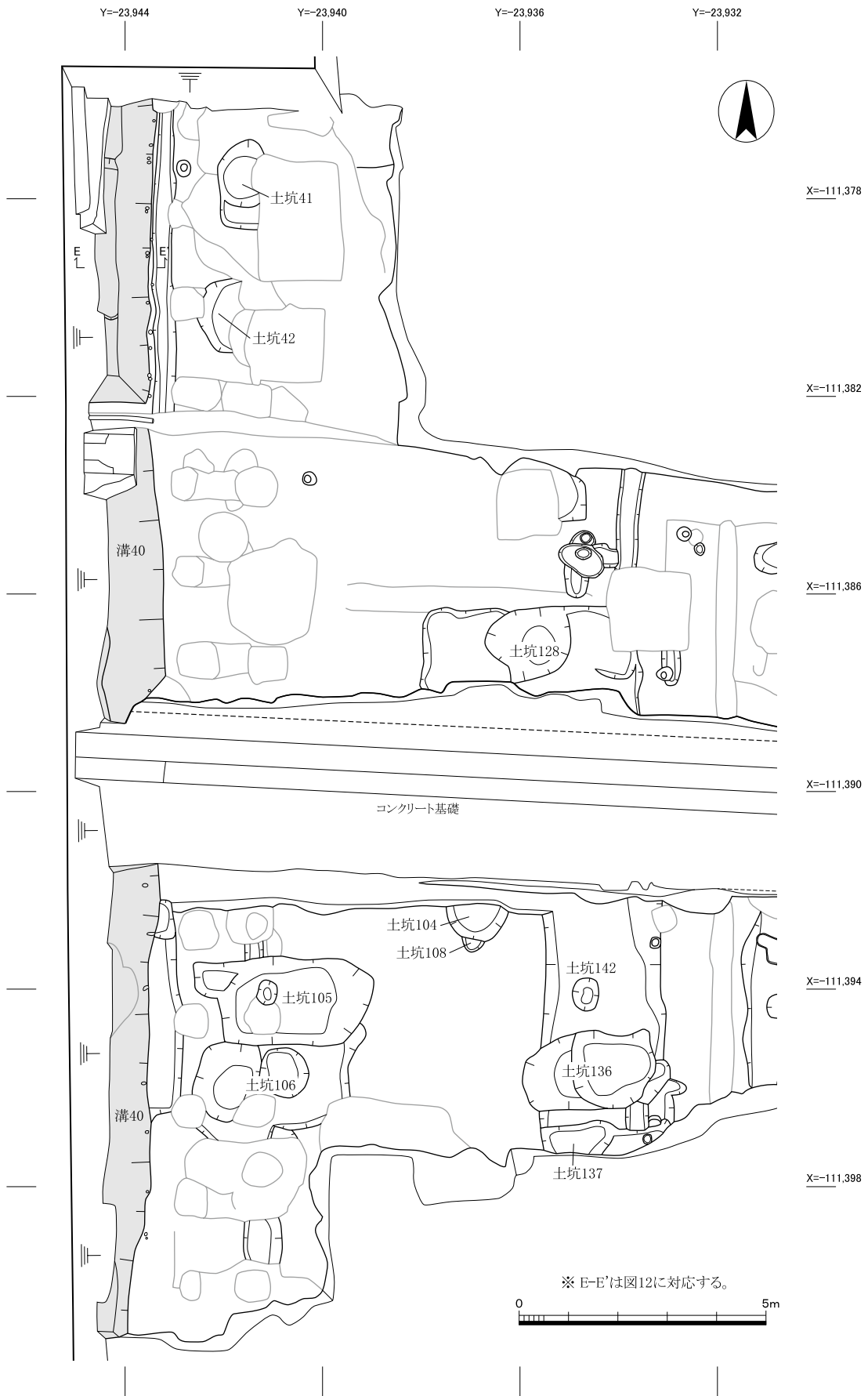
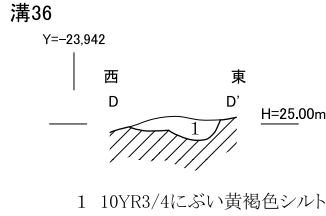
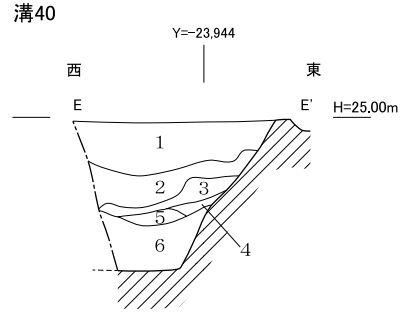
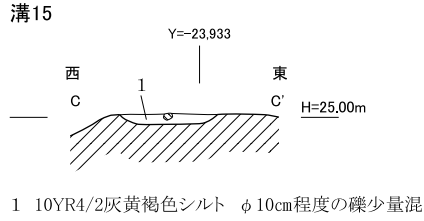


図11 調査区西部拡大平面図 (1 : 120)



- 1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
- 2 2.5Y4/1黄灰色シルト
- 3 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～細砂
- 4 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト～細砂
- 5 10Y4/2灰色シルト～細砂
- 6 10Y4/1灰色シルト

※ C-C'・D-D'の位置は図10、E-E'の位置は図11参照。



図12 溝15・36・40断面図 (1:50)

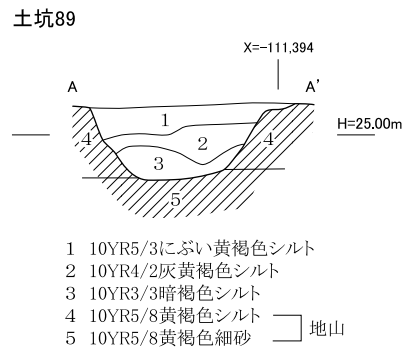
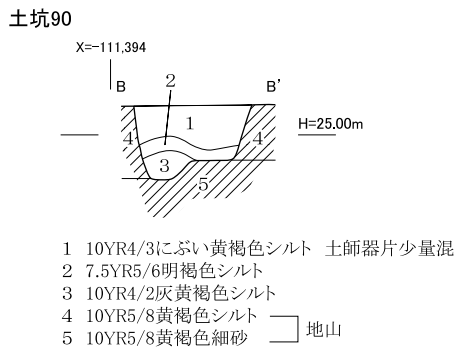
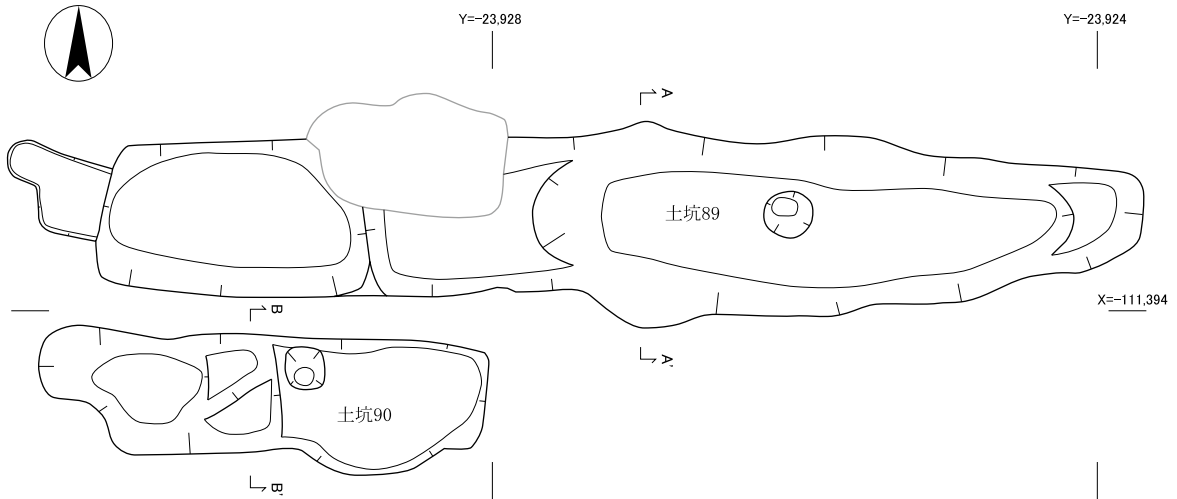


図13 土坑89・90実測図 (1:50)

## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要

遺物は整理箱にして18箱出土した。種類は、土器類、土製品、瓦類である。時代は弥生時代、平安時代前期、平安時代末期から鎌倉時代、室町時代である。以下、遺構ごとに概要を記す。

### (2) 土器類 (図14、図版2)

出土した土器には、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁などがある。

**流路100・130出土土器** 流路100・130から弥生土器が3点出土した。1は広口壺の口縁部で、「ハ」の字形に開き、端部は平らで外側に刻み目が施される。2は甕の口縁部で、やや内湾し、端部内側に刻み目が施される。上端を内側につまみ出す。内外面ともにナデ。1・2ともにⅡ様式。流路130の第2層から出土した。3は鉢の底部で、平底である。全体的に磨滅が激しく、調整は不明である。底径7.0cm、残存高3.7cm。流路100の第22層から出土した。

**溝36出土土器** 4は灰釉陶器の壺の底部である。平底で底面は糸切り、一部焼台の跡がつく。体部内面にはロクロ目が残る。復元底径9.0cm、残存高4.4cmである。平安時代前期である。

**溝40出土土器** 5は土師器皿である。口縁部のみ残存し、やや内湾する。平安時代末期である。

**土坑89出土土器** 6は白磁椀である。底部は削出高台で、体部は内湾する。底部内面には釉剥ぎの跡がある。底径は4.4cm、残存高3.1cm。室町時代。

**その他出土土器** その他、遺物包含層(7～10)や土坑142(11)、土坑14(12)から出土した遺物について述べる。

7は須恵器の杯身の口縁部である。立ち上がりは直線的で高い。5世紀後半。8～10は灰釉陶器である。8は皿である。口縁端部にやや強めのナデを施す。9・10は椀である。口縁端部は丸みを帯び、内側がやや肥厚する。高台は貼付高台で、ともに断面三日月形を呈する。底部内面、高台及

表4 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安京造営前	弥生土器、須恵器、瓦		弥生土器3点、須恵器1点、軒丸瓦1点		
平安時代前期	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、瓦		灰釉陶器4点、緑釉陶器2点、土馬1点、軒平瓦1点		
平安時代末期～鎌倉時代	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦		土師器1点、軒平瓦1点		
室町時代	土師器、青磁、白磁		白磁1点		
合 計		19箱	16点(1箱)	0箱	18箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

びその内側には施釉しない。9は復元口径13.2cm、底径6.6cm、器高3.9cm。10は復元口径14.0cm、底径6.8cm、器高3.7cm。9・10ともに東海地方産、平安時代前期である。

11・12は緑釉陶器である。全体に密にヘラミガキを行い、施釉する。11は耳皿である。内外面ともに陰刻花文が施される。底部には丸みを帯びた低い貼付高台が付く。復元底径7.2cm、残存高2.8cm。12は皿である。断面方形の低い貼付高台が付く。復元底径10.1cm、残存高1.9cm。11・12ともに東海地方産、平安時代前期である。

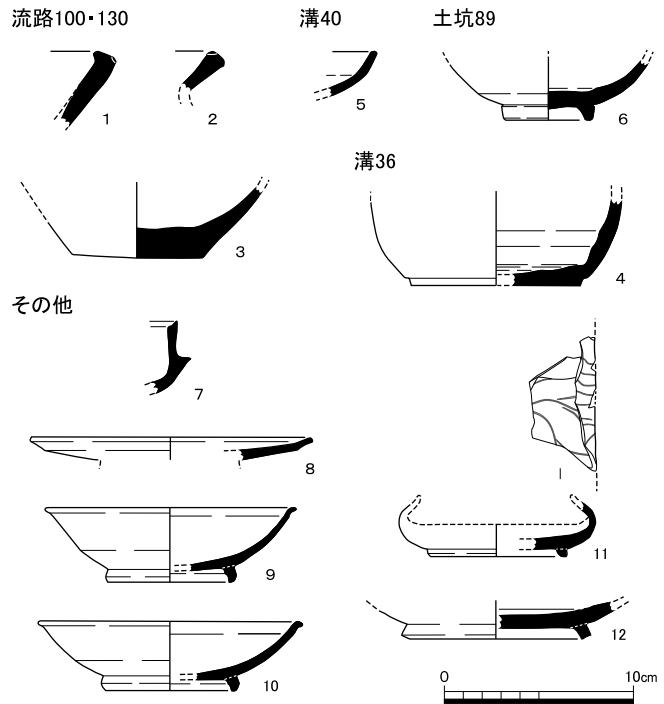


図14 出土土器類実測図（1：4）

### （3）土製品（図15）

13は土製品の土馬である。遺物包含層から出土した。下半身のみ残存しており、頭部・脚部などは欠損している。また全体的に磨滅が激しく、表面にわずかに指オサエの痕跡が残る。

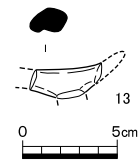


図15 出土土製品実測図（1：4）

### （4）瓦類（図16、図版2）

出土した瓦類は、丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦がある。軒丸瓦・軒平瓦は3点で、いずれも溝40から出土した。

14は複弁蓮華文軒丸瓦で、蓮弁は互いに接し、間弁はY字形を呈する。中房は平坦で圏線がめぐる。外区には珠文がめぐり、その間隔は均等ではない。瓦当裏面はオサエ後にナデ。

15は均整唐草文軒平瓦である。中心部分のみ残存し、文様は対向C字形。外区に珠文をめぐらす。色調は、外面がN4/0 灰色～2.5Y8/1 灰白色で、断面が2.5Y8/1 灰白色である。平安時代前期。

16は唐草文軒平瓦である。顎部裏面はオサエ、平瓦部凹面はタテナデ、平瓦部凸面には布目が残る。折り曲げ技法による。色調は外面がN4/0 灰色、断面が5Y8/1 灰白色である。平安時代後期。

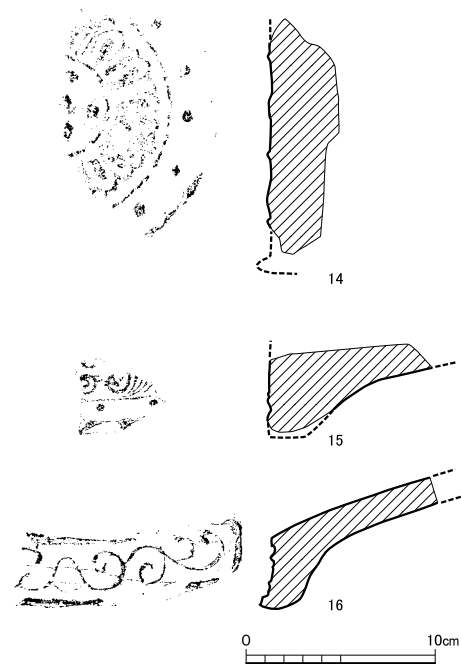


図16 出土瓦類拓影及び実測図（1：4）

## 5. まとめ

平安京右京六条一坊十一町跡の調査は、XF5調査、XF11調査に次ぐ3回目となり、今回の調査で十一町の半分以上の調査が終了したことになる。以下では、今回の調査成果をまとめた後に、これまでの調査成果をふまえて十一町内における土地利用の変遷について述べる。

今回の調査地は、全体的に攪乱が激しく、遺構面が残存していたのは調査区全体の5割に満たなかったが、700㎡以上の調査を行うことができた。検出した遺構は、平安時代の南北溝2条（溝15・36）と平安時代末期から鎌倉時代の南北溝1条（溝40）が主なものである。溝15・36から遺物の出土はわずかであり、時期の特定は困難であるが、周辺の遺構からの遺物の出土状況や埋土の状況から、これらの溝は、それぞれ平安時代前期の西櫛笥小路の東西両側溝と考えられる。平安時代末期から鎌倉時代の溝40（XF11調査SD66）は、西櫛笥小路の西築地心の推定位置に存在するが、幅1.3m以上、深さ1.2m以上で、規模が大きく通常の側溝とは性格が異なる可能性がある。このように、条坊に関連する遺構は検出されたものの、宅地内の遺構は少数の柱穴が存在するのみで、いずれの時期も遺構の密度は低い。

十一町の既往調査では今回の調査地の南側のXF5調査で、平安時代前期の掘立柱建物5棟（SB1～5）、井戸1基（SE6）、十一町を東西に分割する溝（SD183）などを検出している。また、今回の調査地の北側のXF11調査では、平安時代前期の掘立柱建物1棟（SB49）、井戸3基（SE50～52）などを検出している。平安時代後期には、十一町内に遺構はなく、先にあげたSD66と楊梅小路路面上の井戸1基（SE82、XF5調査）のみが確認されている。このように十一町は平安時代前期には、規模は不明であるが宅地として利用されていたと考えられる。今回の調査で建物などが検

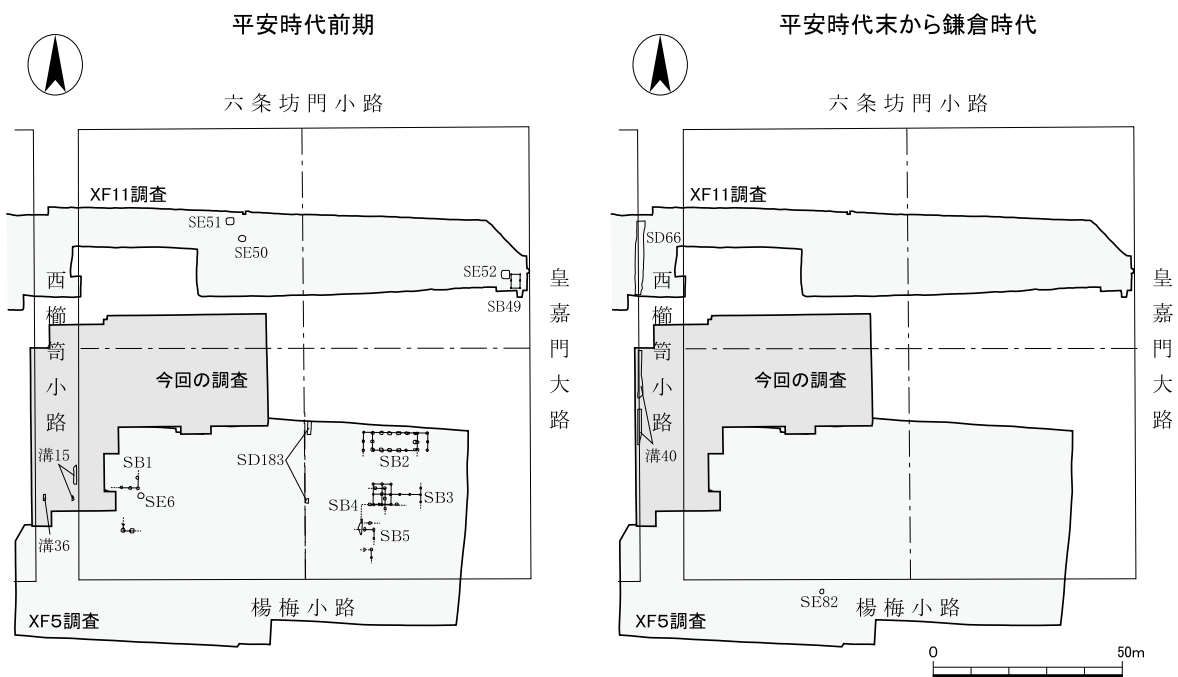


図17 右京六条一坊十一町における土地利用の変遷（1：2,000）



出できなかったのは、この部分が宅地班給されなかったか、あるいは広い宅地の空閑部分にあたる  
ことが考えられる。後者の場合、調査区の東側一帯に広がる平安時代以前の流路跡が湿地となり、  
宅地として利用し難かったことが考えられる。一方、平安時代中期以降の遺構・遺物は確認されて  
おらず、十一町が宅地利用された形跡はみつかっていない。

また調査地周辺の十二町（XF4調査）の北西部では、平安時代前期の4分の1町程度の中規模  
宅地が確認されている。十三町（XF3・6・7・12調査）では、9世紀前半から中頃には4分の  
1町程度の中規模宅地が北半に存在し、また9世紀末から10世紀初頭の四面庇建物（SB1）池  
（SG19）を南西部に確認しており、この頃に1町占地の邸宅となっている可能性が高い。十四町  
（XF7・10・11・21調査）では、特に東半で9世紀後半において2分の1町規模から4分の1町規  
模の宅地の変遷が確認されている。こうした宅地としての利用も十一町と同様に、10世紀初頭を最  
後になくなる。これは、これまで確認された右京六条一坊全体において共通する点である。

しかし、平安時代後期になると皇嘉門大路の東西で様相が異なる。東側の五町（XF2調査）や  
六町（XF8・9・10・13調査）では楊梅小路に面した小規模な建物が建ち並び、さらに六町（XF  
9・19調査）では御堂と考えられる建物（SB79）や園池（SG26）をもつ2分の1町もしくはそれ  
以上の規模の宅地跡が確認されている。一方皇嘉門大路の西側では、六条大路北側溝と西櫛笥小路  
の西側溝は確認されている（XF4調査）が、東側溝や他の小路側溝、建物は見つかっていない。

以上のように、十一町内では平安時代前期には宅地の利用があったが、平安時代中期以降は宅地  
としての利用は確認されていない。これは先に述べた十二町など右京六条一坊の皇嘉門大路以西  
の様相と同様である。また、今回検出した溝40及びXF11調査のSD66の南北溝に関しては、平安  
時代後期から鎌倉時代の西櫛笥小路西側溝推定位置付近で見つかったが、対となる溝が確認でき  
ていないことから、道路側溝ではない可能性も考えられる。今回調査を行った十一町を含め皇嘉門  
大路の西側では、平安時代後期以降は、六条大路北側溝と西櫛笥小路西側溝推定位置に南北溝が存  
在しているのみであり、また楊梅小路路面上には平安時代後期のSE82（XF5調査）があることか  
ら、条坊制に則った区画割が、この時期になされていたかは不明である。この点に関しては今後の  
課題である。





図19 平安時代後期から鎌倉時代の右京六条一坊の様相 (1 : 2,000)



# 圖 版





1 1・2区全景（南西から）



2 3区全景（北東から）



1 溝40 (北から)



2 出土遺物



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうろくじょういちぼうじゅういち・じゅうよんちょうあと							
書名	平安京右京六条一坊十一・十四町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2018-9							
編著者名	松永修平							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2019年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 ちゅうどうじあわたちょう 中堂寺粟田町 ちない 地内	26100	1	34度 59分 45秒	135度 44分 17秒	2018年7月 17日～2018 年11月5日	2,390m <sup>2</sup>	建物新築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安京造営前	流路	弥生土器、須恵器、瓦		平安時代前期の西 櫛笥小路の東西両 側溝を検出した。		
		平安時代前期	溝	土師器、黒色土器、須 恵器、灰釉陶器、緑釉 陶器、土馬、瓦				
		平安時代末期 ～鎌倉時代	溝	土師器、須恵器、灰釉 陶器、緑釉陶器、瓦				
		室町時代	土坑、耕作溝群	土師器、須恵器、青磁、 白磁、施釉陶器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-9  
平安京右京六条一坊十一・十四町跡

発行日 2019年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961